

### Ⅲ 特殊分類別（財別）鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き（表5、表6）

#### 1. 最終需要財

63年の県内最終需要財の生産は、消費財が減少したものの、投資財が増加したため、対前年比3.6%と2年ぶりに増加し、指数は103.1となった。また、在庫は投資財、消費財がともに減少したため、対前年比△9.4%と2年連続して減少し、指数は97.7となった。

##### 1-1 投資財

63年の県内投資財の生産は、資本財、建設財がともに増加したため、対前年比6.8%と5年連続して増加し、指数は114.2となった。また、在庫は資本財、建設財がともに減少したため、対前年比△5.4%と2年連続して減少し、指数は98.3となった。

##### 1-1-1 資本財

63年の県内資本財の生産指数は113.1で、対前年比7.1%と2年ぶりに増加した。これは、飲料用自動販売機、小型自動車等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期102.9（対前期比2.6%減）と減少したが、4～6月期107.5（同4.4%増）、7～9月期122.0（同13.5%増）と2期連続して増加し、10～12月期119.4（同2.1%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は96.0で、対前年比△9.2%と5年ぶりに減少した。これを四半期別にみると、1～3月期102.0（対前期比4.8%減）、4～6月期92.4（同9.4%減）、7～9月期87.6（同5.2%減）と3期連続して減少し、10～12月期100.1（同14.3%増）と増加した。

##### 1-1-2 建設財

63年の県内建設財の生産指数は115.3で、対前年比6.3%と4年連続して増加した。これは、アルミニウムサッシ、配線器具等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期118.1（対前期比2.9%増）と62年4～6月期より4期連続して増加したが、4～6月期114.8（同2.7%減）、7～9月期114.6（同0.2%減）、10～12月期113.8（同0.7%減）と3期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は99.9で、対前年比△2.7%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期100.1（対前期比0.9%増）と7期ぶりに増加し、4～6月期100.1（同±0%）と横ばいに推移し、7～9月期100.3（同0.2%増）と増加したが、10～12月期99.2（同1.1%減）と再び減少した。

##### 1-2 消費財

63年の県内消費財の生産は、耐久消費財が増加したが非耐久消費財が減少したために、対前年比△0.7%と3年連続して減少し、指数は90.2となった。また、在庫も耐久消費財、非耐久消費財がともに減少したため、対前年比△18.3%と2年連続して減少し、指数は96.1となった。

##### 1-2-1 耐久消費財

63年の県内消費財の生産指数は96.0で、対前年比4.6%と2年ぶりに増加した。これは、小型自動車、二輪自動車等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期100.7（対前期比±0%）と横ばいに推移したが、4～6月期99.2（同1.5%減）、7～9月期95.6（同3.6%減）、10～12月期88.6（同7.3%減）と3期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は99.3で、対前年比△36.7%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期97.6（対前期比28.6%減）、4～6月期78.6（同19.4%減）と62年4～6月期より5期連続して減少したが、7～9月期97.3（同23.7%増）、10～12月期120.5（同23.8%増）と2期連続して増加に転じた。

##### 1-2-2 非耐久消費財

63年の県内非耐久消費財の生産指数は83.8で、対前年比△6.5%と4年連続して減少した。これは、陶磁器その他、医薬品等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期84.6（対前期比4.2%減）、4～6月期80.4（同4.9%減）と2期連続して減少し、7～9月期86.0（同7.0%増）と増加したが、10～12月期83.8（同2.6%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は95.3で、対前年比△11.3%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期95.1（対前期比12.0%減）、4～6月期89.1（同6.4%減）と2期連続して減少し、7～9月期105.5（同18.4%増）と増加したが、10～12月期89.5（同15.1%減）と再び減少に転じた。

#### 2. 生産財

63年の県内生産財の生産は、その他用生産財が減少したものの、鉱工業用生産財が増加したため、対前年比3.5%と2年連

続して増加し、指数は107.0となった。また、在庫はその他用生産財が増加したものの、鉱工業用生産財が減少したため、対前年比△2.3%と2年連続して減少し、指数は90.0となった。

## 2-1 鉱工業用生産財

63年の県内鉱工業用生産財の生産指数は107.5で、対前年比3.8%と2年連続して増加した。これは、軸受、三相誘導電動機等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期107.5（対前期比0.2%減）、4～6月期105.8（同1.5%減）と2期連続して減少したが、7～9月期107.1（同1.2%増）、10～12月期109.3（同2.1%増）と2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は88.9で、対前年比△3.4%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期88.7（対前期比0.6%減）、4～6月期86.5（同2.5%減）と61年1～3月期より10期連続して減少したが、7～9月期88.5（同2.3%増）、10～12月期91.8（同3.8%増）と増加した。

## 2-2 その他用生産財

63年の県内その他用生産財の生産指数は100.6で、対前年比△0.1%と2年連続して減少した。これは、軽油、雑油脂等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期94.6（対前期比4.7%減）と減少したが、4～6月期100.5（同6.3%増）、7～9月期104.0（同3.5%増）、10～12月期104.4（同0.4%増）と3期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は107.2で、対前年比15.0%と2年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期112.6（対前期比3.5%増）と62年10～12月期より2期連続して増加し、4～6月期99.2（同11.9%減）と減少したが、7～9月期108.1（同9.0%増）、10～12月期108.7（同0.5%増）と再び2期連続して増加した。

表5 特殊分類別鉱工業生産指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率 (%)				63年四半期別・対前期増減率 (%)			
	60年	61年	62年	63年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	5.6	0.1	1.3	3.6	△0.2	△0.4	2.2	△0.4
最終需要財	8.9	0.3	△0.9	3.6	△0.6	△0.2	4.0	△2.9
投資財	9.7	3.5	3.4	6.8	△0.8	0.9	7.3	△1.3
資本財	15.0	6.4	△0.8	7.1	△2.6	4.4	13.5	△2.1
建設財	4.5	0.2	8.2	6.3	2.9	△2.7	△0.2	△0.7
消費財	8.0	△3.2	△6.2	△0.7	△0.8	△2.1	△0.4	△4.7
耐久消費財	18.4	0.3	△8.5	4.6	0.0	△1.5	△3.6	△7.3
非耐久消費財	△1.5	△7.1	△3.5	△6.5	△4.2	△4.9	7.0	△2.6
生産財	2.7	△0.1	3.5	3.5	0.1	△1.0	1.3	1.9
鉱工業用生産財	3.3	△0.2	3.7	3.8	△0.2	△1.5	1.2	2.1
その他用生産財	△5.1	1.1	△0.3	△0.1	△4.7	6.3	3.5	0.4

表6 特殊分類別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率 (%)				63年四半期別・対前期増減率 (%)			
	60年	61年	62年	63年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	8.2	3.9	△6.7	△4.7	△2.4	△3.3	2.8	2.7
最終需要財	9.1	10.1	△2.1	△9.4	△7.1	△5.0	4.6	0.2
投資財	19.0	6.4	△2.4	△5.4	△1.7	△4.6	△2.0	4.8
資本財	16.8	0.9	4.8	△9.2	△4.8	△9.4	△5.2	14.3
建設財	20.5	10.3	△6.9	△2.7	△0.9	0.0	0.2	△1.1
消費財	△9.5	19.4	△1.5	△18.3	△15.7	△7.9	21.3	△10.0
耐久消費財	△29.6	59.8	△1.9	△36.7	△28.6	△19.4	23.7	23.8
非耐久消費財	△2.3	8.9	△1.3	△11.3	△12.0	△6.4	18.4	△15.1
生産財	7.8	1.1	△8.9	△2.3	0.4	△2.8	2.9	3.3
鉱工業用生産財	8.4	1.0	△8.9	△3.4	△0.6	△2.5	2.3	3.8
その他用生産財	△0.1	2.3	△8.9	15.0	3.5	△11.9	9.0	0.5